

一般質問通告書

受領日時 令和5年11月30日 午前11時00分

6番 氏名 荒川 滋

質問項目	質問の要旨
1 浸水被害の検証と対策について	<p>(1) 県による湯ノ又・浅見内、上山内・下山内町内会の説明会では両地区の細かな浸水域が示された。他の地域において今回の災害を検証し今後に生かすために、町内会単位や可能な被災者から当日の水の流れや状況の聞き取りをしてそれをもとにした検証が不可欠だが、そのための説明会や聞き取り調査はおこなったか。検証がなければ改善はない。</p> <p>(2) 浸水住家の復旧状況は。</p> <p>(3) 住宅支援チームの体制(従事人員)は十分か。</p> <p>(4) 期待が大きい、磯ノ目地区排水対策の下水道施設雨水幹線の整備の内容と効果は。</p> <p>(5) 大きな被害をもたらした町中心部の馬場目川。当初、県により西野橋から富津内川との合流地点までと示された伐木と浚渫工事の今後の予定はどうなっているか。</p> <ul style="list-style-type: none">・西野橋～磯ノ目大橋区間・磯ノ目大橋～五城目橋区間・五城目橋～馬城橋区間・馬城橋～昭辰橋区間(流雪溝出口周辺の大量の土砂)・昭辰橋～富津内川との合流地点までの区間(左岸民有地からせり出している箇所も含む) <p>(6) 県が示した湯ノ又地区の内川川ショートカット、下山内地区の輪中堤の提案は評価したいが、順調に進んでも着工まで2年、完成は4～5年後になると思われる。その間の浸水対策は。また、実現すると、黒土や上山内地区の宅地や農地の浸水助長につながることはないか。</p> <p>(7) 町からの緊急情報の伝達は、防災行政無線(聞き直しダイヤル含む)、ホームページ、Facebook、X(旧ツイッター)、登録制メール、携帯電話エリアメール、Yahoo!防災速報アプリなど手段の多重化が図られているが、公式LINEも開設しさらなる充実を図るべきではないか。</p>
2 鳥獣被害防止計画について	<p>(1) 緩衝帯の設置など対策をしていただいているが、かつてないほどの出没捕獲となっているツキノワグマ。捕獲用の箱わなを増やすべきではないか。</p> <p>(2) 高齢化や勤務の都合で活動できる人数が減少傾向で隊員の負担が非常に大きい鳥獣被害対策実施隊(猟友会)の負担軽減について。</p> <ul style="list-style-type: none">・なり手不足解消のために手当の見直しと経費支援が必要ではないか。(出務日当・解体水道代・エサ代など)

	<ul style="list-style-type: none"> ・隊員の確保、新規従事者の確保と育成をどう図っていくか。 ・エサ交換、見回り、捕獲、解体など負担が大きい猟友会と担当課職員。負担軽減対策として ICT 活用の機器である捕獲わな遠隔監視装置を導入する考えはないか。 <p>(3) 計画では、衛生基準を満たす処理施設がなく捕獲頭数も少ないため費用対効果の観点から流通販売等は困難であるとされている。有効利用と地域経済振興のため、クマ肉処理加工施設設置の考えはないか。</p> <p>(4) 北海道東北知事会が国に対してクマの指定管理鳥獣への追加指定を要望した。指定され財政支援が実現したら、上記4項目のうち町が取り組む対策はあるか。</p> <p>(5) 計画では、被害や目撃情報が増加傾向にあるイノシシ、ニホンジカ、中型動物に対する対策として、電気柵やくくり罠、小型箱わななど機材導入の検討と載っているが進捗状況は。</p>
<p>3 公共施設等総合管理計画の推進について</p>	<p>(1) 令和5年度は五城目町総合発展計画、過疎地域持続的発展計画、まちひとしごと創生総合戦略など中長期を展望したまちづくり計画を着実に推進し、第6次行政改革推進プログラムや公共施設等総合管理計画など行財政改革の取組に視点を置きながら町民福祉の維持、向上を図ると年度当初に公表された。</p> <p>その中でも改革に向けて課題山積の公共施設の在り方について将来に向けて町の意向を確認する。</p>
<p>4 中心市街地の賑わいづくりについて</p>	<p>(1) バスターミナル周辺の飲食店街はテレビ番組の影響もあり訪問者が増加傾向にある。町営の駐車場が必要ではないか。</p> <p>(2) 朝市ふれあい館について。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町高齢者福祉計画第9期介護保険事業計画のデータによると、当町は高齢者の幸福感が県内最下位レベル。『運動機能や栄養状態などの心身機能の改善だけではなく居場所づくりや社会参加の場の充実運動により幸福感や健康感が増すと考える』と掲げられている。以前、高齢者の『居場所』の役割も果たしていた朝市ふれあい館ではホールからテレビが撤去され、それに伴い利用していた方々は姿を消した。テレビは有料利用者優先で会議室に移動したということだが、朝市来場者はじめ町民が気軽に触れ合える場所であるよう、高齢者をはじめとした町民の居場所づくり、いきがい創出のためにもホールに再度設置すべき。会議室でのテレビ利用状況と合わせて伺う。 ・他の施設への影響が大きい格安利用料を人件費、エネルギー価格上昇も考慮し見直す考えはないか。 <p>(3) 令和3年6月定例会でも提言したが、店舗と事業所に限った情報を発信し、中心市街地のシャッター街の解消に向け『空き店舗バンク』を設置すべき。このままでは町の顔である『まちなか』が完全に消滅してしまう。</p>